

第66回東海高等学校総合体育大会バスケットボール競技

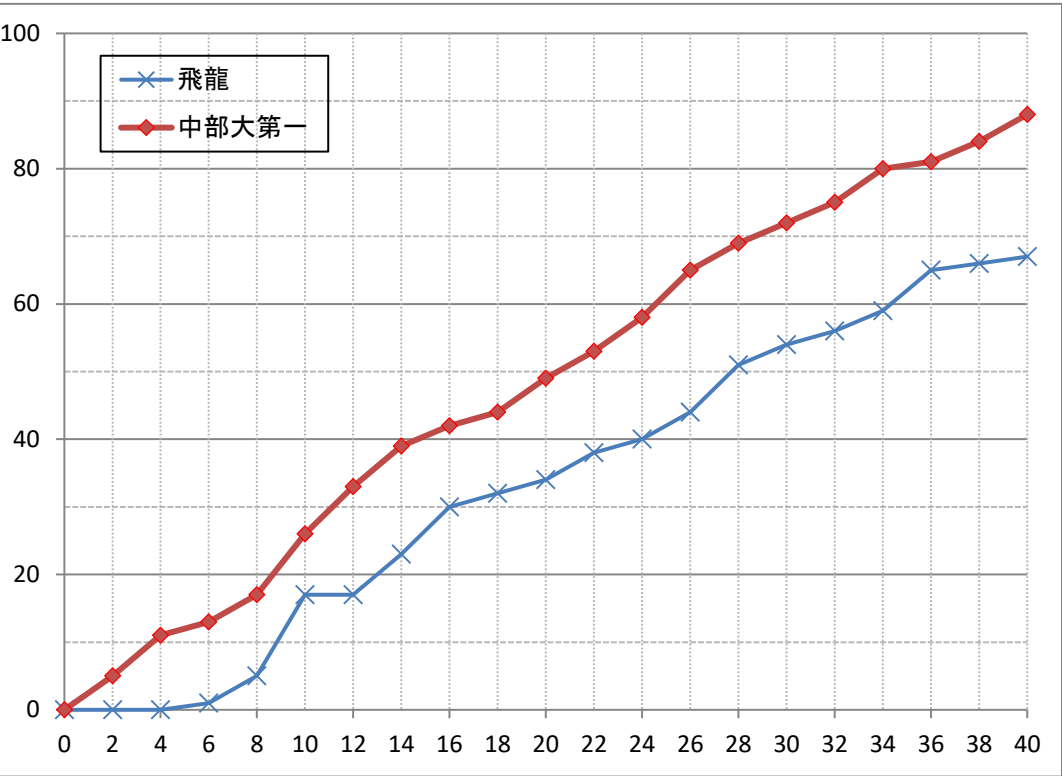
男子準決勝	
試合日	2019年6月23日
会 場	エコパアリーナ
コート	A コート
開始時間	11:40

TEAM A		TEAM B	
飛龍 (静岡)	67	88	中部大第一 (愛知)
17	-	26	
17	-	23	
20	-	23	
13	-	16	
	OT		

TEAM A		飛龍 (静岡)					
No	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		高 須 崇 介	0	0	0	0	0
5		色 山 輝	3	1	0	0	1
6	*	松 井 翔	0	0	0	0	2
7	*	中山田 海 渡	31	8	3	1	1
8	*	保 坂 晃 毅	14	0	4	6	4
9	*	鳥 見 勇 敬	4	0	1	2	3
10		古 大 内 雄 梨	7	1	2	0	4
11	DNP	関 口 就 斗	0	0	0	0	0
12		佐 藤 彩 人	0	0	0	0	1
13		番 地 敦 也	0	0	0	0	0
14		三 橋 翔	1	0	0	1	1
15	*	リュウ ヤハオ	7	0	2	3	3
16		本 橋 献 人	0	0	0	0	0
17		池 田 涼	0	0	0	0	0
18		櫻 井 棕 介	0	0	0	0	0
TEAM/COACH			/	/	/	/	
TOTAL			67	10	12	13	20

TEAM B		中部大第一 (愛知)					
No	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	DNP	小 林 拓 光	0	0	0	0	0
5		仲 宗 根 弘	8	1	2	1	3
6	*	深 田 怜 音	27	1	10	4	1
7		加 藤 康 太 郎	10	0	4	2	2
8	*	Batoumani Coulibaly	21	0	8	5	3
9		福 富 剛 志	1	0	0	1	2
10	*	吉 本 大 心	9	0	4	1	2
11	DNP	葉 山 隆 誠	0	0	0	0	0
12	DNP	中 元 優 治 郎	0	0	0	0	0
13	DNP	田 中 力 斗	0	0	0	0	0
14	*	福 田 健 人	5	1	1	0	3
15		Abdoulaye Traore	0	0	0	0	2
16	*	谷 口 歩	6	0	3	0	2
17		平 良 和 輝	1	0	0	1	0
18	DNP	古 島 輝	0	0	0	0	0
TEAM/COACH			/	/	/	/	
TOTAL			88	3	32	15	20

【 得点経過 】



【 戦 評 】

1Q 東海大会男子準決勝は、飛龍(静岡)と中部第一(愛知)の対戦となり、全国大会常連の両チームの熱戦が期待される。両チーム共にマンツーマンでスタート。中部第一⑥深田のバスカンで先制すると、⑩谷口のジャンプシュートなどで加点する。得点のない飛龍はタイムアウトを取って立て直しを図り、ペイントアタックとオールコートのDEFを仕掛ける。しかしフリースローが決まらず、飛龍は5分間ノーゴールで苦しい展開となる。飛龍⑧保坂のドライブから加点すると、硬さが取れはじめ、⑦中山田の3Pなどで追い上げる。お互いに堅いDEFの中で一進一退の攻防となり、第1Qは飛龍17-26中部第一となる。			
2Q 中部第一⑤仲宗根の1on1、3Pで勢いに乗ると、⑧バトゥマニがゴール下で連続得点する。一方、飛龍⑦中山田が3連続で3Pを決め、追いつく。中部第一⑥深田がローポストからバスカンを決めると、飛龍は⑤色山の3P、⑧保坂の速攻からの加点で追撃を図る。点差が10点に詰まると中部第一はタイムアウトを請求。1on1から攻撃を組み立てる中部第一と、ボールと人を動かしながら、ムービングオフェンスを組み立てる飛龍の図式となる。飛龍のミスから中部第一⑩吉本が速攻でレイアップを決め、第2Qは、飛龍34-49中部第一となり、後半へ。			
3Q 後半開始早々、中部第一⑧バトゥマニがリバウンドから豪快なダンクを決め、流れを引き寄せる。飛龍は⑮リュウのゴール下で一矢報いるが、中部第一の⑥深田がレイアップ、バスカン、3Pと一気に12得点と活躍する。21点差となり飛龍はたまたまずタイムアウト。飛龍は⑩古大内、⑦中山田の3P構成で詰め寄るが、中部第一は⑮アブドラヤ、⑧バトゥマニがペイントエリアで攻守にわたり存在感を発揮し、主導権を渡さない。第3Qは、飛龍54-72中部第一となる。			
4Q フリースローによる加点があるものの、なかなか点差を縮めることができない飛龍は、5分47秒でタイムアウトを取る。オールコートでプレッシャーをかけて、相手のミスを誘い、⑦中山田が再び連続で8本目となる3Pを沈め、15点差とする。しかし、中部第一は落ち着いてフリースローを決め、⑤仲宗根から⑦加藤へのアシストパスが通り、再びリードを20点に広げる。結局、飛龍67-88中部第一となり、堅い守りから激しい攻撃を繰り出す見応えのある熱戦は、高い技術と身体能力をいかした攻撃で中部第一が制し、決勝進出を決めた。			
【戦評(文責)】		安田大佑(浜松商業高校)	記入者
		立浪雄樹(静岡市立高校)	